

第5学年 社会科学習指導案

2組 男子17名 女子19名 計35名

授業者 相原 友子

- 1 **単元名** 自然環境に適応したくらしを調べよう
～北海道・沖縄『お国めぐり』ツアーにご招待！！～
- 2 **教材名** 住みよいくらしと環境
(1) 自然を生かしたくらし (教育出版 小学社会5 下)

3 研究との関わり

単元を通して育てたい力

<追究力>

- 資料から、課題に合わせた情報を取り出し、取り出した情報を自分なりに意味づけたり、根拠をもって考えたり、自分なりの視点で整理したりする力を育てる。

<感想力>

- 自分で調べたことや友達の発表などから分かったこと、授業を通しての新たな気付きや驚き、もっと調べてみたいことなど、情報を整理しまとめる力を育てる。

<説明力>

- 調べた過程や結果を目的に応じた方法で適切に表現したり、友達に分かるように説明したりする力を育てる。

4 言語活動

様々な資料から必要な情報を取り出したり、読み取ったりすること。

5 単元の指導目標

- 日本の国土の位置、地形や気候の概要、気候条件に特色ある地域の自然環境や人々の生活に関心を持ち、調べようとする。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- 気候条件に特色ある地域の自然などの様子から学習問題を見出して追究・解決し、自然環境に適応して暮らしている人々の生活の工夫や願いについて考え適切に判断している。 (社会的な思考・判断)
- 国土や地域の自然環境に関する資料を目的に合わせて収集・選択し、自然環境と人々の生活や産業にはどのようなかわりがあるのかを読み取ることができる。 (観察・資料活用の技能・表現)
- 国土の自然の特色や気候条件の異なる地域の様子をとらえ、暮らしと自然環境が深く結び付いていることを理解することができる。 (社会的事象についての知識・理解)

6 評価規準

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用・技能・表現	社会的事象について の知識・理解
おおむね 達成でき る状況	○ 気候条件に特色ある地域の自然環境や人々の生活に関心をもち、自然環境に適応しながら暮らしている人々の生活を意欲的に調べようとしている。	○ 自然環境に適応して暮らしている人々の工夫や願いについて考えたり、適切に判断したりすることができる。	○ 国土や地域の自然環境に関する資料やそこに暮らす人々の生活の様子を調べ、目的に応じた方法で表現できる。	○ 北海道や沖縄県の位置、地形、気候の特徴が分かる。 ○ 自然環境と人々の生活や産業との関連が分かる。 ○ 気候や自然環境を生かした暮らしの工夫や、その土地に住む人々の願いが分かる。

7 指導に当たって

(1) 児童について

児童は、これまでに日本の農業や水産業、工業生産について、問題解決的な学習を行い、資料を読み取る力が育ってきている。さらに、調べたことを発表し合う中で社会的事象を理解し、自分の考えをもってまとめることができるようになってきた。しかし、読み取ったことを関連付けて考えたり、比較したりして情報を再構成するところまでには至っていない。

また、事前調査によると、北海道や沖縄が有名な観光地であることは知っており、実際に訪れたことがある児童も数名いるが、地理や産業の特色についての知識は断片的である。そしてそれぞれの自然の美しさの裏に隠れている厳しさ、そこに住む人たちの暮らしまでは考えたことがない現状にある。

このような実態から、資料を目的をもって読み取り、さらにそれらを関連付けて考えたり、比較したりして、情報を整理し再構成する力が必要であると考えた。

そこで本単元では、グラフや図・話・写真等の資料の読み取りを中心に、相互に関連付けた見方・考え方を身に付けるとともに、我が国の国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考える力を付けていきたいと考える。

(2) 単元について

本小単元は、小学校学習指導要領社会第5学年の目標(2)「我が国の国土の様子について理解できるようにし、環境の保全の重要性について関心を深めるようにするとともに、国土に対する愛情を育てるようにする。」、目標(3)「社会的事象を具体的に調査し、地図・統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、社会的事象の意味について考える力を育てるようにする。」と、内容(4)「我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図とその他の資料を活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。」のア「国土の位置、地形や気候の概要、気候条件から見て特色ある人々の生活」を学習することをねらいと内容にしている。

これは、第6学年の目標(3)「社会的事象を具体的に調査し、地図や年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるようにする。」につながるものである。

我が国は南北に細長く連なった島国であるため、北と南では気候に大きな違いがあり、人々の暮らし方もそれらに密接な関わりをもっている。

沖縄県は、我が国の最西端に位置する。那覇市から直線距離で500～1,000 km圏内には、台北(台湾)、上海(中国)、釜山(韓国)が入り、東京が1,000 km以上離れていることから、沖縄県は隣接する外国の方が近いことが分かる。亜熱帯気候に属し、年平均気温は17℃以下になることはない。また、台風が年平均7回襲来することから降水量も多い。このため、沖縄県の伝統的な家は周りを石垣で囲み、防風林を備えてあることなどから、先人の知恵を感じることができる。さらに、現代の家はコンクリート造りで、屋根には水不足に備えた貯水タンクがあるなど、本県や北海道と比べてみても非常に特徴的である。沖縄県の代表的な農産物はさとうきびである。近年はその他に、菊・洋ランなどの花、パイナップル・マンゴーなどの熱帯果物などの栽培もさかんになってきている。水産業は一人で船を漕ぎ出してかじきまぐろをとる伝統的な漁がさかんである。かじきまぐろの中には体重100 kgにも及ぶものもあり、厳しい仕事である。両産業とも、自然を生かして工夫して営んでいるが、高齢化や後継者不足などの問題を抱えている。

沖縄県には米軍基地が集中している。基地に隣接して暮らす住民は、誤射や軍人による傷害事件など常に危険に脅かされているので、2002年の世論調査では約7割の人が段階的に縮小していくのがよいと考えているが、その一方で、約7割の人は米軍基地が沖縄の経済に少しはあるいは大いに役立っていると考えており、住みよい地域にしていくために様々な面から考えていきたい問題である。

宗谷地方は、北海道の最北端に位置する。宗谷地方は北43 kmにロシア領サハリンと接している。札幌より近いことから、近年、稚内とサハリン州の小中学生数十人が相互訪問しホームステイをするなどいろいろな面で交流を深めている。内陸部では冬季に氷点下20℃以下になることもあるなど寒さの厳しい地方である。家の造りは二重窓、二重の玄関(風除室)、大量の断熱材、家全体を暖める暖房の仕組みなど寒さを和らげる工夫がところどころになされている。宗谷地方は、酪農が盛んである。これは、夏でも気温が低いため、乳牛の病気を抑え乳質も下がりにくいこと、豊富な牧草と乳牛を放牧する広い土地があることなどが理由である。水産業は、毛ガニ・うに・昆布などの漁が盛んで、全国でも有数の水揚げ量をほこっている。強風や荒波、寒さ等、厳しい自然環境下での仕事であるが、獲れた水産物は味もよく、人気が高い。

宗谷地方の人々は北方領土の問題に直面している。日本は、千島列島には、日本固有の領土である北方領土は含まれないとし、ロシアと話し合いにより解決しようと努力している現状にある。この北方領土については、まだ解決されずに残っている問題点としておさえておく。

このように、気候条件が大きく異なり、特色のある地域「北海道」と「沖縄」の人々の生活を比較することを通して、南と北では人々の暮らし方にも違いが見られることをとらえることができる。そして、そこに住む人々は悩みもあるが、どちらも様々な工夫や努力をして自然環境に適応しながら生活していることをより具体的に調べ考えさせることができる教材である。

(3) 指導について

本単元では『様々な資料から必要な情報を取り出したり、読み取ったりすること』を言語活動として意図的に位置付けている。この単元で付けたい3つの力は次の通りである。

①「見通す段階」

〈追究力〉 「お国めぐり」をするというテーマについて確認し、見通しもって意欲的に調べることができるようにする。

児童が単元の見通しをもって学習を進めていくことができるように、児童とともに学習計画を設定していく。その際、比較の視点(「気候や土地」、「家のつくり」、「農業」、「水産業」、「自然や文化」、「人々

の願い」…など)を明らかにして、気候が人々の暮らしや産業と密接に関わっていることを具体的にとらえられるようにする。自然・社会環境の中で、住みよい地域や国土を築こうとする人々の営みに着目させ、地域に暮らす人々の姿が具体的に見えてくるように、資料を教科書・資料集・関連図書等から選定して提示していく。

自分たちが住む地域から離れた地域である北海道と沖縄を調べるにあたっては、「お国めぐり」をするという視点をもたせることで、調べる対象を児童がより身近に感じ焦点化できるようにする。自分が興味をもった地方の産業などを取り上げ、家の人や友達に紹介するという学習の見通しをもたせることで、追究力が高まり、持続していくと考えられる。また自分の生活と比較し、実際にそこで生活する人々の気持ちにもより深く共感しながら学習を深め、追究していくこともできると考える。さらに、写真・映像資料・実物資料等を生かしながら興味・関心を高め、子どもたちが主体的に学習に取り組むことができるようにする。児童の発見や気付き、疑問を、根拠をもって話したり、友達の発言からも考えを広めたりしながら学習を進めさせていくようにする。

②「深める段階」 ③「まとめる段階」

〈説明力〉 調べた過程や結果を目的に応じた方法で適切に表現したり、友達に分かりやすく説明したりする。

〈感想力〉 自分で調べたことや友達の発表などから分かったこと、授業を通しての新たな気付きや驚き、もっと調べてみたいことなど、情報を整理したり関連付けたりして再構成しまとめる。

考えを交流する場において、資料から読み取った事柄やその根拠を整理して分かりやすく話したり、自分の考えと友達の考えを比べながら聞いて交流したりすることを通して、同じ社会的事象であっても、様々な見方や考え方があることに気付くことができるようにする。さらに補足資料等を提示し、社会的事象をより具体的にとらえさせ、考えが深まるようにしたりする。このような学習を通して、広い角度から全体のことも考えるようになり、「追究力」も高まっていくと考えられる。

予想したことをもとに調べる方法を明らかにし、教科書や資料集、関連図書を活用して、児童が調査活動に見通しをもって取り組むことができるようにする。その際、児童が必要感のある資料を選択できるように支援したり、教師が発問を工夫したりして、個々が考えをもてるようにする。また、「5・6年で使いたい言葉」・「社会科用語」シート等を活用して、自分が読み取ったことや考えを整理したり、矢印などを用いて関連付けて考えたりして情報を再構成し、より適切に表現できるようにする。同じ資料を使っている場合、根拠や思考・判断は相違する箇所も出てくるが、それを比較して聞きながら納得する見解を考えていくことで「感想力」が高まると思われる。

④「広げる段階」

〈説明力〉 自分が興味もった地方の観点を取り上げ、それを適切に表現したり、友達に分かるように説明したりする。

掲示を工夫し、関連図書やガイドブック等もいつでも手に取れるようにし、児童が見通しをもって学習に取り組むことができる環境を整備しておく。日本各地域では、その地域ならではの様々な特色があり、その中で人々はいろいろな知恵を働かせながら適応して生活している。その姿を、具体的に調べる活動を通して分かった実態や、考えたことなどを『お国めぐり』に結び付け、楽しく学習を広げながらまとめていく。学習で深めたり確かめたりした『お国めぐり』に必要な事柄や、資料を取捨・選択する力も使い、表現させていく。

8 単元の学習計画及び指導計画（総時数9時間）

段階	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	具体的評価規準 (評価方法)
見 通 す	1	<p>1 日本列島の衛星画像を見ながら、日本の国土がどこまでか調べる。</p> <p>2 同じ月の写真の違いから、同じ日本にもかかわらず気候が異なることを知り、南の沖縄県と北の北海道が何km離れているか調べる。</p> <p>3 北海道や沖縄県について知っていることを発表し合い、単元の学習課題を設定する。</p> <p>○ 海がめの剥製、ラベンダーなどの実物を提示し、沖縄県や北海道への興味を高めること。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">北海道と沖縄県を調べ、「お国めぐり」の計画を立てよう。</div> <p>4 北海道と沖縄県を調べる学習計画を立てる。</p> <p>○ 比べるとき視点について話し合うこと。</p>	<p>○ 色の違いは何を表しているのか、日本の範囲はどこからどこまでなのか、問いを投げかけながら、話し合わせる。</p> <p>○ 桜の暦などを活用し、季節の違いを感じ取らせる。</p> <p>○ 自分の住んでいる地域(滝沢)と比べながら、日本の中でも気候や生活にはいろいろな違いがあることを予想させる。</p> <p>○ 調べる視点 ・気候 ・家のつくり ・寒さや暖かさに合わせた暮らし ・人々の衣食住 ・産業の違い(農業、水産業) ・文化や観光 ・悩みや願い など</p>	<p>知 日本は周囲を海に囲まれており、国境は4つの島であることが分かる。(発言)</p> <p>技 我が国の国土の位置や様子、土地の様子を読み取ることができる。(発言)</p> <p>関 沖縄県と北海道の様子の違いについて関心をもち調べたいことを明確にもとうとする。(ノート)</p>
深 め る	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">気候・土地・自然を調べよう。</div> <p>1 宗谷地方の気候と土地・自然の様子を調べる。</p> <p>○ 冬は気温が零下20度より下がることもあり、暴風雪もふくなど厳しい寒さであることを知ること。</p> <p>2 沖縄県の気候と土地・自然の様子を調べる。</p> <p>○ 一年を通じて気温が高く冬でも雪が降らないが、台風による暴風、大雨の影響がでることや、水不足になることを知ること。</p> <p>3 気候や土地に合わせてどんなくらしをしているか考える。</p>	<p>○ 資料を読み取り、気候や土地の特色を調べ、自分たちの地域と比べさせる。</p> <p>○ グラフの0度と20度のところに赤線を入れさせ気温の違いを実感させる。</p> <p>○ 沖縄県では台風が多く来るにもかかわらず、水不足になりやすいことを、地図から考えさせる。(地形・川の長さなど)</p>	<p>技 写真やグラフなどの資料から、沖縄県と北海道の気候の特色を読み取ることができる。(発言)</p> <p>思 気候に合わせた暮らしや仕事の工夫を予想できる。(ノート)</p>

深 め る 時	3	北海道と沖縄県の家づくりにはどんな工夫があるだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちの住む岩手県と比べながら、宗谷地方の家のつくりを調べさせる。写真だけでなく、分かりやすい絵も提示する。 ○ 沖縄県の昔の家と今の家の写真、資料から、沖縄県の家づくりの工夫について調べさせる。 ○ 写真や教科書・資料集の記述から読み取った事実から、なぜ家のつくりを工夫しているのかを既習事項を生かし考えさせる。 	<p>思 気候に合わせて家のつくりを工夫していることに気付くことができる。(発言・ノート)</p>
	4	農業のことを調べよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作付け面積のグラフの読み方について確認し指導する。 ○ さとうきび、パイナップル、ゴーヤーなど、特産物の果実(実物・写真)を提示し関心を高める。 ○ 気候や自然条件と関連付けて考えさせていく。 	<p>知 それぞれの地域の自然を生かした仕事の工夫や、それに伴う人々の悩みを理解することができる。(ノート・発言)</p>
	5	水産業のことを調べよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの地域の水揚げの多い水産物の資料を用意する。(できれば実物大) ○ 北海道は全国の水揚げ高の約4分の1を占めていることを確認する。 ○ 気候や自然条件と関連付けて考えさせていく。 	<p>知 自然を生かした産業の特色を具体的にとらえることができる。(ノート)</p> <p>思 厳しい自然の中で漁業に携わる人たちの努力や思いについて考えることができる。(ノート・発言)</p>

ま と め る	6	<p>地域のよさを調べてよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 隣国までの距離や周りの国々との結び付きについて調べる。 2 観光パンフレット、ガイドブック等をもとに、自然や文化の違い、その地域のよさを発見する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの自然や文化を生かした産業があり、それを観光にも結び付けていることもとらえること。 3 沖縄県と北海道宗谷地方との結び付きについて調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 隣国までの距離、周りの国々との結び付きを確認し、それらを考えた上で予想を立てながら調べさせる。 ○ パンフレット、ガイドブック、関連図書、インターネットを活用して具体的な事例を調べてまとめさせる。 	<p>関 自然や文化に関心を持ち、資料を集めて調べようとしている。(ノート)</p> <p>技 写真やパンフレットを有効に活用し、具体的な事例を見つけ出し、まとめることができる。(ノート・発言)</p>
	7	<p>暮らしへの願いを調べよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 沖縄県の戦争の歴史や諸問題、宗谷地方とロシア連邦との交流の歩みなどについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの考えの違い、問題の所在を理解した上でよい関係を築くための糸口を考えていくこと。 2 暮らしの問題や人々の願いについて考え、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料をもとに今かかえている問題をとらえさせるとともに、補足説明を加えて考えさせる。 ○ 今までの学習を振り返らせながら進め、それぞれの地域で暮らしていくための問題や願いについて自分の考えをまとめさせる。 	<p>思 それぞれの地域に暮らす人たちの問題と願いについて自分の考えをまとめることができる。(ノート)</p>
広 げ る	8 ~ 9	<p>ここが見所！ 感動！ 私は、○○県(道)の☆☆を紹介します！</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「北海道・沖縄県お国めぐり」のツアーを、自分が感心した一方の地方に限定し、よさや工夫・知恵のある生活ぶりを広める企画を考える。(大きな観点をまず1つ取り入れればよい。余裕がふれば2つ目のPRも考えてよい。) ○ 「北海道・沖縄県お国めぐり」のツアーを、紹介するための企画(壁新聞・リーフレットなど)を考え、準備すること。 ○ 分かったことや考えたことをまとめ、単元全体の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が感心した一方の地方に限定し、お国自慢の柱を考えさせる。 ○ それを紹介する企画を考えさせ、構想を練ってすぐに作業に入らせる。 ○ 学習全体を振り返り、自分の考えをまとめさせる。 	<p>技 自分の感心した一方の地方に限定し、よさや工夫・知恵のある生活ぶりを振り返り、その中から自分の選ぶ「お国自慢」を考え、自分なりの方法で表現できる。(発表物)</p>

9 本時の学習（3／9）

（1）目 標

北海道や沖縄県の家のつくりを資料から読み取り、それぞれの地域の気候や自然条件に合わせた工夫や、人々の暮らしの知恵に気付くことができる。（社会的な思考・判断）

（2）展 開

段階	学習活動・学習内容	形態	指導上の留意点	具体的評価基準 (評価方法)
導 入	1 課題を把握する。 ○ 前時までの学習内容と本時の学習の流れを確認し、全体で確かめること。	全	○ 主体的な活動を促すため、学習リーダーに確認させる。	
	2 北海道と沖縄県の 家づくりには どんな工夫があるだろう。			
展 開	2 “断熱材”の一部と“漆喰”を見せ、何に使われているものなのか予想する。	全	○ 提示した資料が何であるかこの時点で分からなくてよいが、調べていく中で解決していくことを話し、調べていこうとする意欲を高める。	
	3 北海道の家づくりについて調べる。 ○ 断熱材等 耐寒仕様に気付くこと。	全	○ ここでは、工夫については滝沢と共通する部分が多いと思われるので、簡単に確認する程度にする。 ○ 寒さに対する工夫に終結していくことをとらえさせる。	
	4 沖縄県の家づくりの工夫について考える。 ○ 涼しくする工夫 台風から家を守る工夫等について気付き見通すこと。	個	○ 沖縄県の家を、北海道と比べながら、または気候のことを考えながら、根拠をもって考えさせる。	
	5 沖縄県の家づくりの工夫を調べる。	個	○ 沖縄県の伝統的な家と現代のコンクリートの家の資料を提示し調べさせる。 ○ 資料から読み取った事実をノートにまとめさせる。	
	6 調べたことを確かめる。	全	○ 根拠を明確にして友達に分かるように話させる。事実から考えたことを自分の意見と比べながら聞き、新たな気付き・発見を実感させる。	[思考・判断]
	7 事実から気付いたことを交流する。 ○ 読み取ったことを関連付けて考え、暑さ、台風、水不足等に対する工夫があることを思考すること。	グ	○ 予想と比較したり、最初に提示した“漆喰”が何の工夫であったか確かめたりする。	[B]北海道や沖縄県の家づくりを資料から読み取り、それぞれの地域の気候や自然条件に合わせた工夫や、人々の暮らしの知恵に気付くことができる。
33				
終 末	7 学習のまとめをする。	個	○ 自分なりの感想をもち、本時の学習のまとめをさせる。	
	8 次時の課題を予告する。	全	○ 次時は、水産業編を調べることに ついて確認する。	(ノート・発言・うなずき)
10				

自然環境に適応したくらしで使いたい言葉

名前



地図・地形の読み取りで使いたい言葉

☆東西南北	☆国境	☆島国	☆外国	☆隣国	☆四方
☆領土	☆広い	☆せまい	☆長い	☆細長い	☆短い
☆高い	☆低い	☆緯度	☆経度	☆森林	☆平野
☆川	☆高い山	☆さんごしょう		☆流水	
☆～に面している		☆～が広がっている			

気候のグラフ・資料の読み取りで使う言葉

☆あたたかい	☆寒い	☆涼しい	☆暑い	☆台風
☆降水量（多い・少ない）		☆暴風雪	☆雪	☆大雨
☆気温（高い・低い・最高気温・最低気温・平均気温・年中）				☆零下
☆全体的に～	☆一年を通して～，一年中	☆～と比較すると		
☆グラフ（表・図・写真・地図）から～が読み取れる				
☆～の点に注目してみると				
☆身近な～を手がかりにして調べる		☆～の分布から		
☆～の占めている割合が大きい（小さい）。				
☆～に適している。（～に適していない）				



まとめるとき、自分の考えを表現するときによく使う言葉

☆～工夫や努力がある。	☆～と比較すると・・・
☆～に大きな違いがある。	☆関連づけることができる。
☆～があることに気づいた。	☆～と同じように
☆～と深く結びついて（かかわって）いる。	
☆深いつながりがある。	☆～がさかんだ。
☆～の影響で・・・	☆～という特色（特ちょう）がある。
☆利用されている。	☆～を利用して・・・
☆～を生かす。	☆～と・・・の関係から
☆～が進められている。	☆従事している。
☆～と願っている。	☆～という願いをもっている
☆～の被害を受けやすい。	☆～とほこっている。
☆～と評判である。	☆～が進められている。
☆～に恵まれている。	☆～の恵みを生かしている。
☆～に適している。	☆～を支えている。
☆～の発展のために・・・	☆～に役立っている。
☆～に問題点がある。	☆～の理由は・・・
☆重要な役割を果たしている。	

